

自己評価報告書
平成29年度

平成30年4月

学校法人 読売理工学院

専門学校 読売自動車大学校

目 次

はじめに	2
1. 学校の教育目標	
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	
(3) 教育活動	
(4) 学修成果	
(5) 学生支援	
(6) 教育環境	
(7) 学生の受入れ募集	
(8) 財務	
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18
5. 資料	19
資料－1 就職率	
資料－2 求人受付数	
資料－3 資格取得率	
資料－4 退学率	
資料－5 入学者数	
資料－6 学生納付金	
資料－7 学生対象授業アンケート（用紙）	
資料－8 科目の教育目標・授業計画（用紙）	
資料－9 授業概要（用紙）	
別 冊 資 料	
1. 学科教育目標	
2. 科目の教育目標・授業計画	
3. 学生対象授業アンケート集計結果	
4. 学生便覧（履修要項）	
5. 学校案内	
6. 募集要項	

はじめに

専門学校は、教育機関として、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

平成 19 年 6 月の学校教育法改正に伴う「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の公布により、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

平成 16 年度より本校独自の評価項目を設定し実施してきたが、平成 26 年度末に本校が職業実践専門課程の認定を受けたことを機に、文部科学省のガイドラインに基づいた自己評価の様式に沿ってまとめることとした。

「学校関係者評価」を今後も実施することで学校運営の改善に努めるが、大学で義務化されている「第三者評価」についても前向きに検討する必要があると考える。

1. 学校の教育目標

本学院の理念・目的は学院設立趣意書に「時代の要請に奉仕するためには、大学と工業高校の中間に行く徹底した実技教育を目的とする。」(1969 年 11 月 20 日)と定めている通り、職業に特化した高等教育機関を目指し、読売新聞社が設立した。

本校では充実した職業教育を実施することはもとより、人間性の成長を促すことにより社会で貢献できる人材を育成する全人教育も重要な目的とし、学校運営・教育活動等について改善を常に心がけ、教育の質の向上に継続的に努めることを目標と決意する。

この決意に基づき「自己点検評価」を平成 16 年度より行っているが、平成 26 年度に本校が「職業実践専門課程」の認定を受けたことを機に「学校関係者評価」を実施している。

今後も「学校関係者評価」により学校運営の改善に努めるが、「教育課程編成委員会」を通し教育内容の改善にも努めている。

これと並行して「読売式教育メソッド」を制定し、学生の「人間力」「専門力」「資格取得力」「就職力」「基礎学力」をさらに向上させるために改善を進めているが、教員の教育力・人間力の向上も不可欠である。教育力向上を実現するためには、現状の教育内容の客観的な評価が欠かせず、今後は「第三者評価」に対する前向きな取り組みが必要と考えている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

卒業生が、「最高の教育を受けることができた」と思えるよう、「人間性の成長」と「技術・知識のレベル・アップ」を実感できる教育を目標としている。その実現には、教科書に縛られず、より学生に興味を喚起する授業内容を目指し、教育手法の継続的な工夫と、教員の教育力の向上を継続的に追及する取り組みが重要となる。

自動車の技術的進化は、近年ますます速度を増している。教育内容を技術進化に対応したものとするためには、学外での教員の技術研修をより積極的に実施することと、企業現場へ教員を派遣し現在の整備体制や企業が求める人材像を具体的に把握するなどの対応が必要であり、今後の課題である。

また、研修等で教員が理解した新技術を授業内容に反映する場合は、理解しやすく興味を持たせる授業内容を工夫しなければならない。そのため、教員は新技術の裏付けとなる基礎工学等の理解度を向上させることも今後検討する必要がある。

「教員は自動車エンジニアの先輩として、後輩である学生を大切に育てる」という校風を大切にし、教育の過程に力点を置き、理解しやすく興味を持たせる授業内容を実施するために、継続的な努力を惜しまない。「解り易い授業を工夫する」ことは、学生の学習意欲を励起し、授業を通して学生の人間性の向上にも寄与し、さらには学生の定着率向上にも大きな力を持つ重要な取り組みである。

卒業率、国家試験合格者を教育成果としてとらえ、学生に対する学校としての責務とする視点も忘れない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

各評価項目に対する評価責任者は、次の通りである。

- (1) 教育理念・目標： 校長
- (2) 学校運営： 本部長
- (3) 教育活動： 両学科長
- (4) 学修成果： 両学科長・就職委員長
- (5) 学生支援： 両学科長
- (6) 教育環境： 教務委員長
- (7) 学生の受入れ募集： 広報委員長
- (8) 財務： 本部長
- (9) 法令等の遵守： 本部長
- (10) 社会貢献・地域貢献： 学生委員長
- (11) 国際交流： 事務局長

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 3.6 (←3.6←3.6←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	③	2	1
・学校における職業教育の特色はなにか	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

「読売式教育メソッド」に設定した教育目標（目標とする学生像）をより具体的に明確化し、カリキュラムに落とし込むこと必要である。この作業を行うことで教育成果（アウトカム）の明確な評価を行うことが可能となる。

自動車整備士教育が特色ある職業教育そのものであるが、自動車技術と整備技術の急速な進歩により、今後自動車整備事業に質の変化が起こると考えられている。今後の整備事業の変化を予測した整備士教育を検討することが求められている。企業との教育連携をさらに充実させ、教育内容の見直しに取り組むこととする。

② 今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、新技術を取り入れた教育内容に重点が置かれることになるが、これと並行して、基礎工学的な教育をより充実させ理解力と応用力を養成することが、特に1級整備学科に必要とされている。自動車整備学科においても、実習・学科授業の中で、お客様対応（相手の気持ちを思いやる心）を取入れた具体的なシミュレーションを行わせるなど、コミュニケーション能力向上が必要である。

業界で求められる人材を育成する姿勢の維持が重要であり、育成人材像の明確化がカリキュラム作成の上でも必要である。今後は、二級課程1・2年次の育成人材像と一級課程3・4年次の育成人材像を明確にし、2年次修了までと4年次修了までに身に付けるべき能力「～ができる」を明確にし、確実な能力のステップアップに向けた教育を工夫する。すなわち、二級課程で求められる整備士としての基礎能力と、一級課程で必要な総合的な応用能力を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。現状に即した職業教育を行うために、教育における企業連携の強化に取り組む。

③ 特記事項

教育課程編成委員会での検討に基づき、エイミングなどの自動運転に関する実習内容を導入も検討する。1級整備学科、自動車整備学科ともに企業連携実習の導入を積極的に実施する必要がある。

(2) 学校運営 3.5 (←3.5←3.5←3.5←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

江東校の入学者数は2年連続減少後、今年度は増加に転じた。留学生が急増したことが大きな要因で、日本人入学者の減少が続いている。若手教職員でつくる「将来像検討プロジェクトチーム」からの提言を受け、企業との連携強化を進めている。卒業生を送り込んでいる大手ディーラーを招いたイベントの開催など、具体的な成果が出始めている。自動運転車の登場等により自動車業界は新時代を迎えつつあるが、整備士養成校として、時代に取り残されることのないよう、大胆な改革を進めていきたい。

②今後の改善方策

留学生の増加に対応するため、日本語授業を拡充した。また、様々な相談に応じる留学生支援ルームを開設した。このほか、留学生の就職を促進するための企業説明会の開催、日本語学校との連携強化など、留学生対策を強化していく。

④ 特記事項

専門職大学については、財政面、教員確保、他校の動向などを十分検討し、引き続き課題の洗い出しをしていきたい。

(3) 教育活動 1 級整備学科 3.6 (←3.6←3.5←3.4←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

教員の知識習得のために研修等に参加する機会を増やすようにはしているが、研修の日程や授業の都合により思うように多くの教員に参加させることができていない状況である。

② 今後の改善方策

企業から出向いてもらっての学生向け研修を実施しているが、より実践的な技術や知識を展開してもらい、学生だけでなく教員側もこの機会に知識習得をしていく必要がある。

③ 特記事項

特になし

(3) 教育活動 自動車整備学科 3.4 (←3.4←3.3←3.2←3.2)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4	3	②	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	②	1

① 課題

関連分野における実践的な職業教育、自動車整備学科については特に産学連携によるインターンシップ等は体系的に位置付けられるほど実施できていない。

② 今後の改善方策

自動車整備学科の教育時間では、外部でのインターンシップの実施は難しいと思うが、長期休暇等で実施していただくように、企業に働きかける。

③ 特記事項

キャリア教育の一環として、ビジネス・マナーをカリキュラムに取り入れている。

(4) 学修成果 1級整備学科 3.2 (←3.0←3.0←3.4←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

国家試験の合格率は、対策授業の日程や授業内容の見直しにより、合格率は前年よりも向上した。しかし、全国レベルは大きく上回ってはいるがまだまだ満足できる結果とは言えないためさらに学生の能力を上げられるよう見直しをしていく必要がある。

② 今後の改善方策

昨年度も国家試験問題の難易度が高く、今後もこの傾向が続く状況にあるため、教科書の内容を繰り返し理解させ、国家試験の出題傾向に見合う対策授業を計画する必要がある。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果 自動車整備学科 3.0 (←3.0←2.6←3.0←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

退学率の低減は努力しているものの、学生が多様化していることに十分に対応できていない。
留学生の増加により、今後の就職先として外国籍の学生採用を前向きに検討して頂けるよう、企業への働きかけや相談を受け現在の就職率を維持する活動が必要となる。また、内定者の内定辞退などが発生しないよう、意識を低下させない学生指導も今まで以上に必要となる。

② 今後の改善方策

基礎学力の低い学生に対するフォローに力を入れるとともに、留学生の指導を留学生相談室と連携してさらに強化する。

③ 特記事項

--

(5) 学生支援 1級整備学科 3.1 (←3.3←3.4←3.3←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

近年は国家試験の合格率が低下している傾向にあり、就職先企業からも国家試験不合格者に対する試験対策支援の依頼が多くなってきている。卒業生は仕事の関係から学校に出向いて国家試験対策授業を受けることは難しいため、どのような方法で支援体制を整えていくかを考えなければならない。

② 今後の改善方策

過去の例から見ても、卒業時に合格できなかった学生の翌年以降の資格取得率は極めて低い。ため、まずは在学中に学習意欲を高める習慣を身に着けるよう指導し、卒業時に合格できなかった場合でも継続的に次年度の試験に挑めるよう本人の意識付けをしたうえで、試験に向けたフォロー体制を作っていく必要がある。

③ 特記事項

--

(5) 学生支援 自動車整備学科 3.3 (←3.4←3.3←3.4←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかという点は、実行できていない。

② 今後の改善方策

工業高校とりわけ自動車整備関連の学科を設けている高校が減少する状況で、高校・高等専修学校との連携は困難であると思う。むしろ小中学生に向けた、自動車整備士に関する職業理解を得るような、体験授業などを模索すべきではないか。

③ 特記事項

--

(6) 教育環境 3.7 (←3.7←3.7←3.3←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・実習スペースが不足ぎみである。 ・設備、教材の老朽化
--

③ 今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・スペースの有効利用のため、定期的な不要品の廃棄、外部倉庫の利用、部品収納棚の設置による整頓 ・優先順位を付け設備・教材の改善を実施 (設備等：タイヤチェンジャー及びバルンサーの交換、実習場の作業機の交換、111、211、611 実習場に学生用荷物棚の設置、塗装ブース・エアカーテンの交換) (教材等：エンジン分解車両の交換、T/M脱着用車両の交換、エンジン分解用2輪車の交換、クーラーガス回収機の追加)

③特記事項

--

(7) 学生の受入れ募集 **3.3** (←3.3←3.7←3.7←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学生募集は、適性に行われているか	4	③	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

留学生の入学者が増加する一方で、日本人の出願が落ち込んでいる。
 18歳人口が減少する中、どのようにして日本人学生を確保するか、その方法について知恵を絞り実践する必要がある。学生募集の大きな柱になるオープンキャンパスへの日本人参加者が年々減少しているため魅力ある新しい内容を考え実施する必要がある。
 ますます増加する留学生の中で優秀な学生を獲得するための選抜方法を検討する必要がある。
 留学生が増加すれば教職員の負担も増加するのでその軽減方法についても検討する必要がある。

② 今後の改善方策

高校生や保護者の方に整備士として働くことに魅力を感じてもらうことが重要であると考え。従って、オープンキャンパスの内容を見直し、企業と連携することで、やりがいや楽しみ、整備士の将来性について理解してもらえるように努める。
 日本語授業の充実を図り日本語能力の底上げをすることで、就職活動や国家試験を乗り切る力を身に付けさせることは勿論、学生生活を充実したものとする。
 母国語の話せる職員が常駐するなど、留学生の受け入れについて、教職員が協力してバックアップする体制を整える必要がある。

③ 特記事項

--

(8) 財務 3.5 (←3.5←3.5←3.5←3.2)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適性に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

本校と三田校の2校を運営する学院では、4年連続で両校の入学者が500人を超えた。収支の改善が進んだが、三田校の移転、江東校の将来計画等を推進するためには、引き続き、安定的な経営を継続していくことが求められている。

② 今後の改善方策

留学生の増加傾向が続いており、2019年度から入学金減免制度を見直し、10万円から5万円に引き下げる。代わって、基準以上の日本語力のある学生には学生納付金を5万円減免する。一方、貸教室の利用増など、教室の活用を促進していく。

③ 特記事項

学院創立50周年を記念して、教育のいっそうの充実を図るため、寄付金を募集している。

(9) 法令等の遵守 3.8 (←3.8←3.8←3.5←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

働き方改革関連法が成立し、残業時間の罰則付き上限規制など、大きな制度転換が行われた。学院としても、適正な労務管理をいっそう推進し、課題があれば、労使で改善を図っていききたい。

また、学生に対しては、法律を守る意識をしっかりとってもらうため、地元警察署の協力を得て、入学時に、防犯講習を実施している。

個人情報保護についても、引き続き、教職員に徹底していききたい。

② 今後の改善方策

休日消化を促進するため、個人別消化計画の策定など、具体的な対策を進めている。夏休みなどではまとまった休暇の取得を推進している。

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域社会 2.7 (←2.7←2.7←3.0←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携において資格講習や講座の開講はしているが、地域との連携は不足している。 ・学生に対し、社会人マナーを身に付けさせる目的で、更に効果的な学生指導を検討する。 ・一教育機関として、地域への貢献ができないか（小学校などへの出前授業等）検討。
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育機関として地域へ貢献も検討するが、一部署での活動には限界がある。 ・江東区の教育委員会事務局や亀戸2丁目商店街と連携し、具体的な取り組みを実施する。 ・社会人意識を養うためにも、学校外でのボランティア活動も積極的に検討する。
--

③特記事項

<p>例年実施している、日本テレビ系の24時間TVのボランティア活動において、近隣の清掃活動を実施しており地域との連携を心がけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防犯や安全について、区役所などの公共機関との連携を行い、昨年10月より江東区の「こども110番の家」に登録し、地域活動に積極的に参加。

(1 1) 国際交流 (必要に応じて) 3.5 (←3.3←3.0←3.0←2.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか	4	③	2	1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

① 課題

年々増加している留学生の大半は、すぐに帰国することなく日本に残って自動車ディーラー等で自動車整備士として働くことを希望しています。仕事をする上で必要な日本語能力を充分身につけさせることが課題である。

② 今後の改善方策

日本語能力試験 (JLPT) N1、N2 の合格に向けた日本語授業のコマ数を増やし、指導を徹底して実業界に送り出せるまでのレベルに引き上げる。

③ 特記事項

- ・2018年度から、N1、N2の合格を目指して、1、2年生の日本語授業コマ数をそれぞれ増やす。
- ・留学生が自由に交流でき、関連手続きを済ます場となる、支援ルームを設置する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成 29 年度は、昨年度に続き、企業連携を通して実践的な実習内容を取入れること、「読売式メソッド」をより具体化しカリキュラムへ落とし込むこと、退学率の改善などを目標とし、取り組んできたが、今後も継続して取り組むべき課題である。

二級課程では二級国家試験の高い合格率を維持することができた。一級課程の国家試験結果は、全国平均を大幅に超える合格率ではあるが 100%を達成することができなかったが、昨年を上回る結果を残すことができた。対策授業の見直しや、授業内容や教育計画についても再検討し、さらに良い結果を出すために具体的な取り組みを実施することが重要課題である。

一級課程においては、電気自動車の普及と EV 用充電器のインフラ整備が政府の方針となっていることを受け、一級整備士課程のカリキュラムの中に必修教科として「第二種電気工事士」の資格取得のための教育を実施しており、高い資格合格率を目指す。

二級課程での実習授業では、自動車技術の最新動向と整備内容の変化を把握し、授業内容を見直し改善することを通して職業に特化した教育を実現する方向性を持ち続けることを目指す。

今年度の退学率に関しては、一級課程、二級課程共に増加傾向があり、次年度も 1 年生の退学率を抑える努力を継続する努力が必要である。退学理由の上位である「進路変更」「学力不足」「単位数不足」を念頭に置き、教育内容の改善に取り組むと共に、臨床心理士カウンセラーとも連携して、学生の学習意欲の向上対策を広い視野で検討することとする。

「読売式教育メソッド」は、「人間力」「専門力」「就職力」「資格取得力」「基礎学力」の五つの柱を明文化し、創立以来の伝統である「面倒見のよさ」「少人数主義」に代表される教育方針を、学生にどんな力が身につくかという観点からまとめ直したもので、本校の教育手法の特色と強みをわかりやすく打ち出した。今後は、本校が育成したい人材像をより明確にし、それをカリキュラムに反映する取り組みを今後も継続的に取り組む。

学生募集に関しては、少子化が進む厳しい状況下での活動であり、昨年度実績を上回ることができたが、留学生の増加によるところが大きいと、長期的に安定した学生募集を行う上で、女性を含めた日本人学生の募集強化に努めることが重要であり、次年度以降も継続的な課題である。